

湖東発

省エネ時代の快適素材 洗える麻わた製品

滋賀県愛荘町／滋賀麻工業株式会社

湖東麻織物の製造業者である滋賀麻工業株式会社では、これまで長年培ってきた技術を活用し、繰り返し洗濯しても千切れず、かつ吸湿性、通気性等に優れた「洗える麻わた」を開発。地域産業資源活用事業計画に認定され、この素材を活用した多用途パッドのほか、各種寝具用品の試作を進めており、本格的な市場投入を志向している。



滋賀麻工業株式会社

- 所在地 滋賀県愛知郡愛荘町市 583
- 資本金 2,000万円
- 従業員数 20名
- 認定日 平成24年6月20日
- 営業品目 麻織物製造業

きっかけ

滋賀麻工業（株）は創業以来60余年「麻」という素材にこだわり続けてきた会社である。特に「伝統」「原糸」「織り」はもちろんのこと、顧客・ユーザーの視点に立ってのテキスタイルや最終製品の「開発」にもこだわり続けている。

地域産業資源活用事業計画の認定を受けた「洗える麻わた（ウォッシュャブル麻綿）」についても、当社の開発力が基礎となっている。

「一番最初に麻わたの開発を思い立ったのは、平成15年頃ですね。CO²削減・クールビズが叫ばれる中、麻という素材は適して

いるぞと思ったのです。しかし、地域産業資源活用事業に至るまでには長い時間がかかっています。」(滋賀麻工業（株） 監査役 山田正弘氏)

山田氏は専務取締役であった平成17年頃からウォッシュャブル麻綿の開発をスタート。ウォッシュャブル麻綿が完成したのは、滋賀県市場化ステージ支援事業や、しが新事業応援ファンドを活用しての試作に挑戦した平成20年のことだ。その後は、洗濯・抗菌などのデータを取りながら、新素材を使った新商品（ベビー用品、襦袢、肌着など）を次々と試作・リリースしていった。

「ファンド事業が終わる頃、洗える麻綿を生かした商品は、もっと売れるものがあるはずだと思い、開発を続けていく必要性を感じていました。地域産業資源活用事業の話を中心機構と中央会からお聞きしたのは、ちょうどその頃でしたね。」(山田氏)



監査役の山田正弘氏

本事例のポイント

新しさ 洗える麻綿を素材とした多用途な敷きパッド

独自性 麻織物ならではの機能性（通気性・吸湿性）を生かす当社の企画力

時代性 消費者のエコロジー志向、クールビズ志向にマッチ

開販拓 展示会を活用し、異業種との連携を進める

次展開 製造コストの削減と新製品の企画

どんなことを

平成24年6月に地域産業資源活用事業計画の認定を受けた当社では、「寝具」にねらいを定めることになった。麻にはもともと「ひんやり感（接触冷感）」があり、さらに「近江ちぢみ」の加工を表裏に入れることで肌との接触面を減らし、「さらさら感（通気性）」も生み出すことができるため、寝具にピッタリの素材といえる。

さらに、洗濯可能な麻綿は、天然の抗菌防臭性も有ることからますます寝具に最適である。近年の節電・クールビズの志向からも需要が見込め、寝具カテゴリーは、シーツはもちろんのこと、パジャマ、枕カバーといった多様な製品への展開可能性を有している。

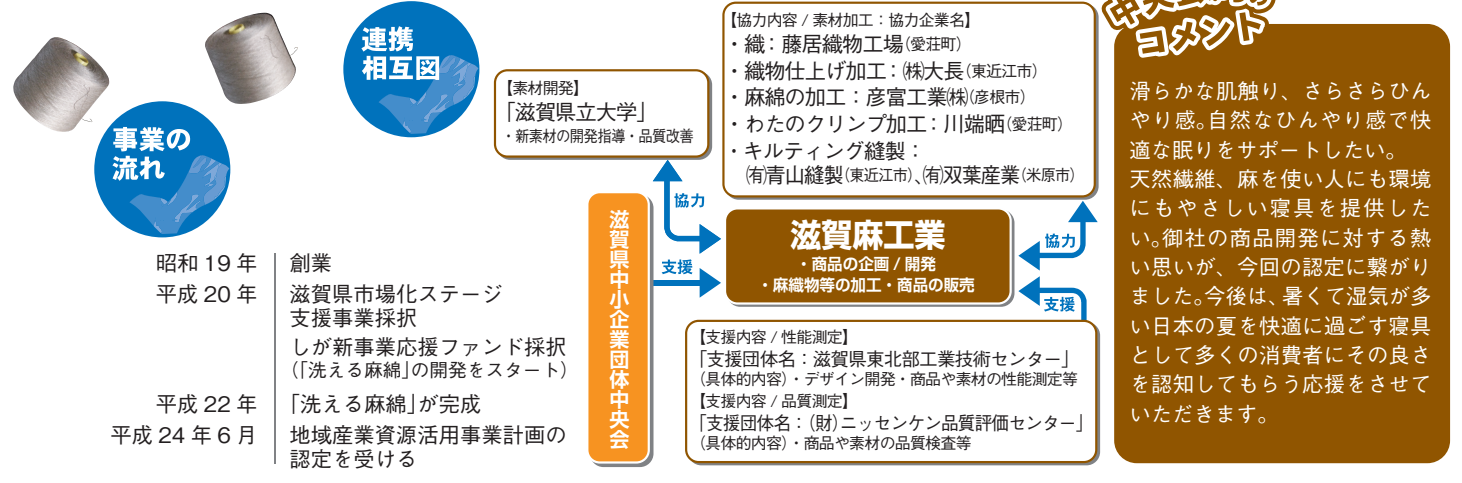
たとえば、「洗える麻わた」を素材とした敷きパッドは、敷布団の上にひんやりとした「快適な睡眠」を提供できる点がアピールポイントとなり、折り曲げもできる多用途パッドは、床、ソファや車内など、様々な場面での使用ができる。

山田氏の予想どおり、家庭用洗濯機での洗濯ができるという素材の特徴が、新たな市場を創造しつつある。当社では「洗える麻わた」のカタログを作成し、卸・小売に向けての販路拡大を進めている。

結果は

新商品の寝具は、TVなどのマスメディアでも紹介された。顧客アンケートの反応も「寝ていて気持ちがいい」「ジェルパッドよりもよい」と上々だ。展示会での露出を通じて、異業種との連携により麻綿を使った通気性のよいダウンジャケットが開発されたりと、新しいアイデアの種も生まれつつある。

現在の課題は価格である。地域産業資源活用事業計画の認定を生かし、コストを下げようとするための研究も必要だ。さらには、夏だけでなく冬の需要も喚起したい。開発の喜びと期待も束の間、やるべきことは山積だ。



「ものがあふれている昨今、商品は作るより売るのが難しいですからね。安閑としていてはダメだと思っています。常によいものをより安くする努力をしていかないと、メーカーは生き残れません。」(山田氏)

山田氏が絶え間ない試行錯誤を続けられるのは、これまでの挑戦の軌跡があるからだろう。「マーケット・イン」言葉で言うのは簡単だが、山田氏の言葉には「洗える麻わた」と5年以上向き合ってきたがゆえの重みが込められている。

活用素材

湖東麻織物(近江上布)は近江で織られた上質の麻織物のことをいう。鎌倉時代からの歴史があり、有史以来700年余りもの技術や手法がそのまま伝承されている。糸、染、織、加工などいくつもの工程に優れた技術が組み合せて、「近江上布」の高級な仕上がりが現在にも継承されている。昭和52年3月30日に近江上布の名で伝統的工芸品に指定されている。



活用したい支援策 販路拡大、商品改良とコスト改善、顧客視点からの製品研究